

お掃除で広がった たくさんのご縁に感謝

神奈川県

清水^{しみず}

和美^{かすみ}



お掃除をすることでご縁ができた、たくさんの方を思い出して書いてみます。

2005年、『お金でなく人のご縁ででっかく生きろ』の著者中村文昭先生の講演会に参加したとき、大阪の松倉様という女性

に出会い、松倉様のお誘いで大阪の食博というイベントに参加し、そこで満田和美さんに出会いました。同じ和美という名前から会話がはずみ、そのとき「東京に鍵山秀三郎という素晴らしい方がおられます。8月の新宿でのお掃除の会に参加しませんか」と誘われました。その満田様と新宿掃除に参加し、初めて鍵山相談役にお会いしました。

鍵山様のことを調べているうちに、東京武蔵境の岡山英之進様が、鍵山様の講演会を開くことが分かり、その懇親会にも参加しました。そのときの隣が亀井民治様で、亀井様は鍵山様をじっと見ていてあまり話されませんでした。その後、岡山様が亀井様に会いに行くとのこと、一

緒させていただきました。

亀井様は武蔵小杉駅前を毎月朝6時からお掃除されていると聞いて、私は初めてお掃除の会に参加しました。

そして2009年1月15日、「大和掃除に学ぶ会」を始めるという話を聞きました。私は、この発足から参加し、そこで山崎貞雄様、新納政光様、中村秀信様に出会いました。また昔刈公園の掃除にも参加して、阿部豊様や大木ひろみ様、櫻井雅人様に出会いました。お掃除をしなければ出会えなかった方たちばかりです。

お掃除に参加して13年、お掃除との出会いで素敵なご縁が広がり、幸せな豊かな人生になりました。お掃除の魔力に感謝感動です。

(246-0015神奈川県横浜市瀬谷区本郷3丁目57-11)

お掃除の心得

神奈川県

秋山 あきやま

利輝 としてる

心を磨く神様、鍵山様と出会ったのは25年前、川崎市の中学校でのお掃除会です。当時、注文家具を早く綺麗に作ることをだけを考えていた私は、掃除などに無関心でした。

友人に連れて行かれ、最初に説明してくださいました方の人柄に引き込まれ、次に道具の並べ方からその種類にびっくり仰天！ 使い方と使い道の説明に聞き惚れました。そして、いざ本番。自宅のトイレも掃除したことのない私が嬉しくて「便器をやらせてくださいー」と叫んでいました。そして、自分

が磨いた便器で顔まで洗ったのです。感動でした。

以来、近隣での掃除の会には弟子たちを連れて参加しています。「トイレ磨きは、心磨き」「ごみを拾う人は、ごみを捨てない」鍵山様からの学びです。

弊社には「職人心得三十箇条」があり、新人は必ず最初に覚え、朝礼でも日々唱和しています。その中に「掃除、片付けの上手な人から現場に行かせてもらえます」「トイレ掃除ができる人から現場に行かせてもらえます」とあるのは、掃除の会に参加してきたからに他なりません。

私が考える「お掃除の心得十箇条」を紹介します。

お掃除の心得十箇条
1 お掃除のできる人から、仕事を

させてもらえます。

2 お掃除のできる人から、高度な仕事を頼まれます。

3 お掃除のできる人から、リーダーに選ばれます。

4 お掃除のできる人から、家族を幸せにできます。

5 お掃除のできる人から、住みよい町にしていけます。

6 お掃除のできる人から、日本のために働けます。

7 お掃除のできる人から、世界のために働けます。

8 お掃除のできる人から、宇宙のために働けます。

9 お掃除のできる人から、未来のために働けます。

10 お掃除のできる人は、日本の宝です。

私を変えた学校トイレ掃除

宮城県

小畑 おばた

貞雄 さだお



トイレ掃除とゴミ拾いを続けて27年、何の取り柄もなく自信のなかった私は変わりました。

1995年、迷いの中にいた40歳のとき、NHKのラジオ深夜便「こころの時代」で、鍵山相談役のお話を聴きました。私は「この人についていこう」と決め、公園で

ひとり掃除を始めました。

それから12年、2007年のことです。趣味のバトミントンで通う中学校のトイレの汚れがひどく、生徒をかわいそうに思いました。「トイレ掃除をさせてください」と頼みましたが、断られました。しかし、この先何もしないで終わる人生は惨めだと思ったのです。私は、「一度だけ」とお願いし、掃除を見ていただいて、出入りを許されました。

今振り返ると無謀でした。学校はマンモス校で、便器数が多いうえに古かったです。初日にも、ものすごい汚れを前に、「やめるなら今だ」と不安がよぎりました。しかし、1時間以上かけて便器ひとつをきれいにすると、「一体なんだろう、この達成感。気

持ちいい」と、体中に感動が走りました。

それから一つひとつ、コツコツ丁寧に磨き、2年半ですべてのトイレをやり遂げました。学校も変わりました。私は嬉しくて舞い上がってしまいました。

この体験は自信となり、その後さまざまな場面で掃除をするこゝたになりました。続けることへの勇氣、また楽しさも知りました。何よりも嬉しいことは、こんな私にも素敵な仲間ができたことです。便器に感謝、ゴミに感謝です。すべては鍵山相談役が会わせてくれました。少しでも世の中の役に立つ人間になるよう、これからも「掃除最優先、例外なし」で、心みがきを続けます。

無言の使命感ということ

大阪府

田仲たなか

三夫みつお

「無言の使命感」という言葉は、精神科医として永くライ病患者と接してきた神谷美恵子氏の著書『人間をみつめて』の中で使われている言葉です。

当時ライ病患者は、家庭や社会と絶縁され失意と絶望の中で、孤独に陥っている人が多くいました。それでもなお生きていく意味や生きがいを求める人がいました。そのような厳しい日常生活(施設)において、自分の役割を見つけ、日々暮らしている人たちの存在を次のように紹介しています。

「精薄者の親代わりとなって愛

護の労をつづける人」・「海岸沿いの道を一年中毎朝清掃する人」・

「雨の日も風の日も丘の上の恵みの鐘を朝夕きつちりと6時につけてきた人」

神谷氏はこのような人たちの、「報酬」はもちろん「皆に認められること」も意識しない姿勢に感動し、さらに次のように述べています。「こういう人たちの目立たない尊い存在を眺めていると、そこには無言の使命感のようなものが働いているのではないかと思われてならない」と。

この無言の使命感を思うとき、会社経営とともに身近な掃除を通してひとの心の荒みをなくすために50年間取り組んでこられた鍵山秀三郎様の後ろ姿には、無言の使命感によるやむにやま

れぬ思いを感じます。

そして、今全国で鍵山掃除道に学びつつ掃除実践を静かに黙々とされている人がおられることが私の救いです。しかし、一方で掃除やゴミ拾いを続けている私が、ときに「これは自己満足か自己顕示ではないのか」と頭をよぎることがあります。

そんな自問に示唆を与えてくれるかのように、神谷氏は「使命感にあふれるということは思い上がりといよりよがりの危険を伴う」、「使命感に生きる人の注意すべきことは常に謙虚な反省を忘れないこと」と述べています。今後、私自身を客観視しおごらず、「謙虚な反省」を忘れずに続けたいと思います。

鍵山相談役はわが人生の師

宮城県

村井^{むらい}

嘉浩^{よしひろ}



私は1992年4月、松下政経塾に入塾しました。政経塾の設立者である松下幸之助翁は、「自分の足元も綺麗にできない人間に、人の役に立つ仕事はできない」と

の考えで、生前は塾生に掃除を直接指導されてきました。私が入塾した時点で幸之助翁はすでに鬼籍に入られていたため、掃除指導を鍵山相談役をお願いすることになっていました。

そうした理由から入塾直後の最初の研修が㈱ローヤルでの掃除研修でした。本社を訪問すると、トイレだけでなく、会社から駅までゴミを拾い、側溝まで清掃し、ゴミは分別細分化され、全てに無駄がありませんでした。

また、社員が自主的に掃除に参画している姿に瞠目いたしました。かつて幸之助翁が奈良県に本部がある宗教団体を視察した際、信者さんが自分の利害に関係なく熱心に掃除をしている様子を見て経営の本質を見つけたとい

う逸話に共通します。

私はその後、鍵山相談役を生き方の見本にすべく宮城掃除に学ぶ会に入会し、今に至ります。

最後に一つの逸話を紹介しましょう。私の後援会長(㈱)ホットマン伊藤信幸社長の新店(イエローハット)開店時に鍵山相談役が出席されてきました。相談役は、勧められるままに、トウモロコシを一つ手にしてガツガツと食べ始められました。そのお姿を拝見し、「よほどお腹が空いているのだろう」と思っていたら、食べ終わった芯を見て大変驚きました。粒のかけらがまったく付いておらず真っ白だったのです。何事にも手を抜かず徹底される鍵山相談役は私の人生の師であり目標です。これからも、お元気でご指南ください。

やっておいて良かった

「お掃除だより」

大阪府 堀りか



トイレ掃除に初めて参加したのは、2016年5月「大阪掃除に学ぶ会」の河内山本での例会でした。モヤモヤしていた心が掃除の後スッキリし、皆さんの笑顔が

印象的でした。

その後も参加させていただき、「西宮掃除に学ぶ会」を中心に活動するようになりました。(写真として当時代代表世話人だった佐藤弘一さんから、「お掃除だより」を作ってほしいと頼まれました。経験もノウハウありませんでしたが、参加者の感想と写真を載せるだけとうかがって、気軽に引き受けました。

ところがやってみると、考えていた以上に構成や写真選定などに時間がかかり四苦八苦しました。なかなか思うようにはできず、自分の能力不足に嫌気がさしました。いい写真を撮ろう、いいものを作ろうと力むほどうまくできませんでした。

しかし出来栄はさておき、参

加者が感想文を書いてくださることが喜びと励みになって毎月続けることができ、それが自信につながりました。そして、記録として残すことができました。

「お掃除だより」は、「日本を美しくする会」のホームページに掲載していただいています。ご覧になった方が興味を持たれて参加されたこともあり、嬉しいことでした。またローカルテレビのお掃除コーナーでも紹介していただきました。

「やればできる」自信がつき、それが今私の大きなエネルギーとなつていきます。現在第49号が発行できました。これからも掃除を続け、「お掃除だより」も力まずに作っていきたいと思います。

(591-8005 堺市北区新堀町2-107-48-701)

鍵山秀三郎先生と出逢って

香川県

國方

卓



だと紹介されたのが、鍵山秀三郎先生でした。

鍵山先生を知って、私の考え方は本当に変わりました。何がすごいのか、先生の一つひとつの所作を見ていると自ずと答えが見えてきます。自分の行いに迷いが出たとき、悩みが出たとき、目を閉じて、「こんなとき、鍵山先生だったらどうするだろう」と考えるようになりました。

凡人の私は、間違ったことをしてしまふこともあります。そんなとき、息子から「父さん、今言ったこと鍵山先生の前でも言えるの」と問われます。「ハッ」と我に返り、息子に「父さんは鍵山先生にはなれない。近づきたいとは思いうけど、無理」と言い訳をします。鍵山先生と出逢ったことで、

私だけでなく、息子の人生まで良くなっていると思うと、本当にありがたく、日本の将来も明るいと思うのです。

鍵山先生には本当にかくさんのことを教えていただき、それは本一冊でも書ききれません。考えた末に、一枚の写真を挙げます。寒い雪の降る朝、街頭清掃時の集合でのことです。先生は、耳を出しています。

何気ない写真のようですが、人の話を少しでもよく聴こうとする先生の姿勢が表われており、先生のすごさを感じるのには私だけでしょうか。お人柄も含め、鍵山秀三郎先生に一步でも近づきたいといつも思っています。息子に注意されることがないように。

(760-0011香川県高松市浜ノ町69-13-204)

私が機動隊の小隊長をしていた20年近く前のこと、「麻雀20年間不敗の男、伝説の雀鬼」桜井章一さんを尊敬していました。その桜井さんから、「私の唯一の先人」

何ごともなく掃除に 没頭する子どもを育てる

福岡県

高橋 たかはし

泰朗 やすろう

校長で赴任した小学校では、子どもたちは攻撃的で礼儀を弁えず、荒んでいました。原因は「不安」です。悪い子どもたちではありません。「大丈夫だよ」と伝えなければいけません。

すぐ始めたのがトイレ掃除です。効果はわかりませんが、とにかくやってみよう。それは祈りに近いものでした。「校長がトイレ掃除？」という奇異の目もありました。

職員も問題を共有し協力してくれました。一緒に考えた方策の一つが「掃除」です。掃除をした

子どもは、何か手ごたえを感じなのか、生活環境をみつめる目が違ってきたようでした。掃除を核とし、生活習慣づくりの目標を、「子どもが自分で高まる実感をもつこと」と「弁え合う集団意識を育てること」としました。

少し効果が見えてきたころ、
「15分間で学校を変える〜掃除の時間はゴールデンタイム〜」へとステップアップしました。指導者の意識も高め、集団活動として整えました。すなわち、掃除の時間は「礼で始まり礼で終わる」として礼を重んじ、先生と子どもと一緒に掃除に励みました。私も、トイレ担当の2人の子どもと毎日トイレ掃除をしました。

挨拶、靴並べ、話の聞き方、お礼の言葉などの、並行して進めて

いた他の生活習慣づくりの成果も出てきたようで、子どもたちは落ち着き、授業での自信もみられるようになりました。

職員集団が子どもの育成に集中し、掃除に没頭させたことが子どもの情感を大きく動かし、成長欲求を満たしたのだろうと感じます。「情感は深くあり、物言わぬまま味わうがいい」です。

校長在任2年、清々しい環境づくり、そして習慣づくり、やがてそれらは「感化」を起こしました。「掃除に没頭することが当たり前」になれば、心が荒むことはありません。掃除は、子どもを輝かせる大切な教育活動です。鍵山先生はじめ皆様から学ばせていただいたおかげです。